

今日のビジネスにイノベーションとアジリティをもたらす Red Hat OpenShift Service on AWS

アプリケーションは、現代のビジネスのデジタルオペレーションに不可欠なものです。Kubernetes ベースのコンテナ環境は、企業が効率的かつ大規模にアプリケーションを構築、導入、実行することを可能にします。Kubernetes はその利点と高い評価にもかかわらず、導入が複雑になることがあります。さらに、コンテナ・プラットフォームを導入しても、IT の複雑さがハイブリッド環境におけるコンテナベースのアプリケーション開発と管理の妨げになることがあります。

Red Hat OpenShift Service on AWS (ROSA) は、レッドハットのターンキーアプリケーション、利用者がすぐに使えるコンテナサービスと AWS クラウドを統合したものです。ROSA を利用することで、企業は共同で管理するエンタープライズグレードのアプリケーションプラットフォームを持つことができ、コンテナ化されたアプリケーションの構築、導入、管理を効率的に行うことができます。このソリューションは、Red Hat とアマゾン ウェブ サービス (AWS) が基盤となるプラットフォームを管理することで、アプリケーションの開発と導入を簡素化し、ビジネスユーザーが Kubernetes を迅速に導入して、革新的なアプリケーションの作成に集中できるようにします。

Red Hat OpenShift クラウドの利益、コスト、リスクをより良く理解するために、Red Hat は Forrester Consulting に委託して、6 人の意思決定者にインタビューし、Total Economic Impact™ (TEI) 調査を実施しました。¹ この概要は、ROSA の使用とそれが組織にもたらす価値に焦点を当てています。



インフラ管理労力の削減
50%



開発期間の短縮
60%~70%

投資を推進した要素

Red Hat OpenShift Service on AWS を導入する前、インタビュー対象企業に共通して見られた課題には以下のようなものが含まれていました。

- **イノベーションの抑制。** インタビュー回答者は、開発者の時間をプラットフォームとリソース管理に集中しなければならなかったため、より価値の高いイノベーションを生み出す機会や、新しいテクノロジーの提供によるビジネス発展の機会を逃す結果になったと語っています。また、カスタムアプリケーションの構築に苦慮しており、サービスのパーソナライズを支援するパートナーを求めていました。
- **システムのモロシック性。** 意思決定者にインタビューしたところ、品質の低さ、リリースサイクルの長期化、ダウンタイムに悩まされているとのことでした。さらに、アーキテクチャを維持し、アップグレードするための運用オーバーヘッドに対して、コストと時間がかかりすぎるといった問題がありました。



全文を読む

- **柔軟性とスケーラビリティの欠如。** インタビュー回答者は、既存のシステムが将来にわたって使えるものではないことを認識しました。特定のビジネスニーズに適応し、時間の経過とともに変化することができるソリューションを探していると述べています。

RED HAT OPENSIFT の特徴

インタビュー回答者は、Red Hat OpenShift Service on AWS の以下の特徴が特に組織に有益だったと言っています。

- **開発者のイノベーションを推進。** ROSA では、開発者は基本的な運用やインフラ管理を気にすることなく、オンデマンド環境でアプリケーションの構築と導入を行うことができます。また、このプラットフォームは、170 以上の AWS サービスやビルド・自動化ツールなどの堅牢なポートフォリオを含む統合ツールを備えており、これらを活用することで開発の加速と効率化を図ることができます。
- **柔軟性と拡張性。** OpenShift を AWS クラウド上に展開することで、企業はビジネスクリティカルなアプリケーションを迅速に展開し、ビジネスの成長に合わせて拡張することができます。さらに、このソリューションにより、データおよび IT 投資を最大限に活用することができます。ROSA は、AWS と共同運営し、ハイブリッドクラウド上でパフォーマンス、スケーラビリティ、セキュリティを最適化したクラウドネイティブサービスをユーザーに提供します。
- **サポートと運用。** Red Hat と Amazon は共同で、ROSA の顧客に 99.95% の稼働率でサービスレベル契約 (SLA) を締結し、プロダクショングレードのサポートを提供します。Red Hat のサイト信頼性エンジニア (SRE) は、ROSA デプロイメントのインストール、管理、メンテナンス、アップグレードを行います。この豊富なサービスの組み合わせにより、運用の複雑さを軽減し、市場投入までの時間を短縮することで、企業はビジネスに不可欠なニーズに集中すること

ができます。また、IT インフラやセキュリティチームの日々の運用負担を軽減することができます。

「Red Hat OpenShift on AWS では、企業がより迅速に機能を利用できます。新しいアプリケーションや新しいモデルを立ち上げる際に、コードが少なく済むので、より柔軟に対応できます」

アパレル企業、IT 製品・ソーシング向け開発者

主な成果

以下の結果は、レポート全編でモデル化したモデル組織に基づいたものです。

開発スピードの加速。 ROSA に投資する前、インタビュー対象企業は、大規模で、負担が大きく、管理コストの高いアプリケーションを使用していました。インタビュー調査対象の意思決定者は、ROSA のマイクロサービスおよびコンテナベースのアーキテクチャを使用することで、自社のアプリケーション開発およびテストプロセスが大幅に高速化され、開発者はこれにより開放された時間をより生産的に使用できるようになります。

- **開発時間を 70%短縮。** Red Hat OpenShift on AWS を使用することで、組み込まれているツール、継続的インテグレーション/継続的デリバリー (CI/CD) パイプラインにアクセスできるので、開発アプローチを最新化し、アプリケーションの開発およびデプロイを効率化できます。その結果、開発期間は 1 年目で 60%、2 年目で 65%、3 年目で 70%短縮されました。高度な教育についてのプロジェクト・コーディネーターは、「プロセス全体が 50%速くなり、開発者の生産性が上がりました」と話しています。

「問題点の1つに、自分たちでインフラを構築したくないということが挙げられます。その分、優れたエクスペリエンスの創出に注力したかったのです。自分たちで行わなくてすむよう管理してくれる人を探していました」

アパレル企業、IT 製品・ソーシング向け
開発者

インフラ管理のオフロード。 開発プロセスが遅くなるだけでなく、レガシー環境では、開発者が新しい環境を手動で調達する必要があり、それには数週間かかり、複数の関係者が関わることもありました。Red Hat OpenShift on AWS を利用することで、開発者はインフラのメンテナンス作業に時間を割く必要がなくなり、その時間をアプリケーション開発をサポートする、より生産性の高い作業に再利用することができるようになりました。AWS と Red Hat がクラウドベースのコンテナ環境を全面的に管理します。

- **開発者が 20%の時間を転用。** 以前の環境では、インフラのメンテナンス作業に開発者の時間が割かれることがありました。通信企業のディレクターはこのように説明しています。「これまでは、開発者が自分でインスタンスを構築しなければなりませんでした。開発者は5分の1の時間をインフラのメンテナンスに充てていたのではないのでしょうか」。高度な教育についてのプロジェクトコーディネーターは次のように述べています。「Red Hat OpenShift on AWS により、開発者は顧客が何を必要としているかを把握するために、より多くの時間を費やすことができるようになりました」。

運用効率の向上。 ROSA を使用することで、これまでインフラのメンテナンス作業に費やしていた開発者の時間を取り戻すことができただけでなく、インフラ管理を担当していた DevOps の専任スタッフを他の業務に割り当てることができたと、インタビュー回答者は述べています。企業は、アップグレー

ド、パッチ適用、脅威の監視と修復を管理することで、コストのかかるダウンタイムを削減し、信頼性を維持することができます。

- **インフラ管理労力を 50%削減。** ROSA を使用することで、組織はアプリケーション開発環境のメンテナンスを担当する DevOps スタッフの数を減らすことができました。通信企業のディレクターは次のように述べています。「Red Hat OpenShift on AWS を利用する前は、インフラ管理の経験を持つチームメンバーを 10~12 人抱えていました。10~12 人のうち、3~4 人ははそのまま同じ業務に残り、他のメンバーはアプリケーションオーナーのチームでリードする立場になりました」。高度な教育についてのプロジェクト・コーディネーターは、「スタッフの 25% をオペレーションから開発に配置転換しました」と付け加えました。

TOTAL ECONOMIC IMPACT の分析

詳しくは、本調査の全文「[The Total Economic Impact™ of Red Hat OpenShift Cloud Services](#)」をダウンロードしてください。本調査は Forrester Consulting が Red Hat の委託を受け、2021 年 11 月に実施したものです。

調査結果

Forrester は、Red Hat OpenShift クラウドサービスを利用した経験を持つ企業 6 人の意思決定者にインタビュー調査を行い、全組織の結果を集約して 3 年間の財務分析を作成しました。リスク調整後の現在価値 (PV) の定量的利益には、以下のようなものがあります。

- 開発速度を向上し 1 億 7300 万円以上の価値を創出。
- インフラ管理を 2 億 4200 万円以上をオフロード。
- 業務効率を 1 億 5000 万円以上改善。



投資利益率 (ROI)

468%



正味現在価値 (NPV)

4 億 7000 万円

付録 A : 後注

¹ Total Economic Impact は、Forrester Research が開発した手法で、企業のテクノロジーに関する意思決定プロセスを強化し、ベンダーが自社の製品やサービスの価値を顧客に伝えることを支援するものです。TEI 手法を使用することで、企業は上級管理職やその他のビジネス上の主要な利害関係者に対して、IT の取り組みについて具体的な価値を説明し、根拠を示し、実現に役立てることができます。

開示事項

以下の点に注意してください。

- 本調査は Red Hat の依頼により、Forrester Consulting が実施しました。本文書は、競合分析を意図するものではありません。
- Forrester は、他の組織が受け取るであろう潜在的な ROI については、一切の想定をしていません。Red Hat OpenShift 導入の妥当性を判断する際には、本調査報告で提供されているフレームワークに読者自身の予測を適用することを強く推奨します。
- Red Hat は本調査の報告内容を確認した後、Forrester にフィードバックを提供しました。ただし、本調査の内容と結果の編集権限は Forrester が有しており、Forrester の見解と矛盾する変更や、調査の意味を曖昧にする変更は認められていません。
- Red Hat はインタビュー調査を行う顧客名を提供しましたが、インタビュー調査には参加していません。

TEI について

Total Economic Impact™ (TEI、総経済効果) は、Forrester Research が開発した手法であり、企業の技術関連の意思決定プロセスを強化し、ベンダーが製品やサービスの価値を顧客に提案するための支援を行います。TEI 手法を使用することで、企業は上級管理職やその他のビジネス上の主要な利害関係者に対して、IT の取り組みの具体的な価値を説明し、根拠を示し、実現に役立てることができます。TEI 手法は、投資価値を評価する「利益、コスト、リスク、柔軟性」の 4 要素で構成されています。

© Forrester Research, Inc. 無断複写・複製・転載を禁じます。Forrester は Forrester Research, Inc. の登録商標です。

FORRESTER®